

霊的な発達（新しい人の成長）

1. 世界は良いものとして創造され、人間は愛である神にかたどって創造されました。それにもかかわらず、人間の生活は利己心や他の悪に満ちています。





📖 「神は愛である。」 1ヨハ 4,16

📖 「神は御自分にかたどって人を創造された。」 創 1,27

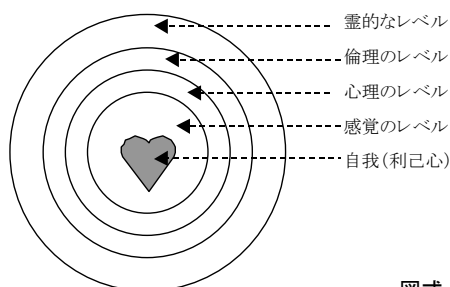
📖 「肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのもです。」 ガラ 5,19-21

2. 原罪（神や自分や他の被造物との正しくない関係）のために、人間は、神や自分を知りません。結果的に、自分を中心とする幻想を作って、その中に生き、自分を生かすために周りにあるものを利用しようとして、以上のような罪を犯し、死と他の悪をもたらす。

📖 「神を知らない人々は皆、生来むなしい。彼らは目に見えるよいものを通して、存在そのものである方を知ることができず、作品を前にしても作者を知るに至らなかった。かえって火や風や素早く動く空気、星空や激しく流れる水、天において光り輝くものなどを、宇宙の支配者、神々と見なした。」 知 13,1-2

<p>A. 生まれたときは、人間の心が清くて、開かれています。</p>	
<p>B. 辛い体験（裏切り、がっかり、虐待、暴力、誤解など）によって負わされた傷が心を包んで、それを固くします。心を囲む壁となります。</p>	
<p>C. 自分を守るために悪いことをしたり、神に対して、人に対して罪を犯したりします。この罪は心を囲むもう一つの壁となります。</p>	
<p>D. 過去に負わされた傷を思い起こすと辛いし、罪を犯した自分が醜いし、それらを見たくないなので、もう一つの壁を作ります。それは、理想の自分、建前、格好（自分が弱いと思う人は、強がる。悲しい人は、楽しく生きているように見せる。劣等感のある人は、他人を差別したりして、自信があるかのように見せる。）</p>	

神（外に）



図式 1 人間が造った幻想

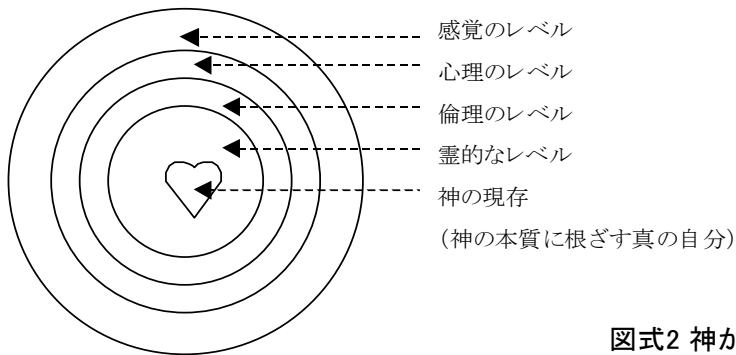
- 📖 「神を知らない異邦人のように情欲におぼれてはならないのです。」 1テサ 4,5
- 📖 「愛さない者は、神を知らない。神は愛である。」 1ヨハ 4,8
- 📖 「あなたがたはその神を知っていないが、わたしは知っている。もしわたしが神を知らないと言うならば、あなたがたと同じような偽り者であろう。しかし、わたしはそのかたを知り、その御言を守っている。」 ヨハ 8,55

3. このような状態から人間を救うために、神は人間に新しい命を与えることを約束しました。

- 📖 「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。」 エゼ 36,26

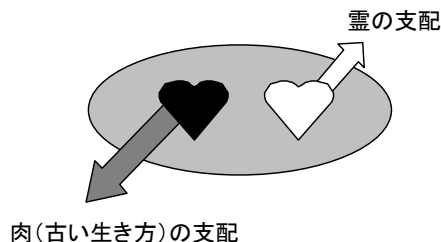
この約束は、洗礼において成就されます。

- ◆ 洗礼を受けた人が、新しい創造（2コリ 5,17）、神の子、相続人となり、御子の霊がこの人の心に送られています（ガラ 4,5-7）。この人は、神の本性にあずかり（2ペトロ 1,4）、キリストの体の一部で（1コリ 6, 15）、主に結び付く者として、主と一つの霊となります。したがってその体は、聖霊が宿ってくださる神殿であって、自分の体で神の栄光を表すことができるようになります（1コリ 6,17-20）または、御子の姿に似たものにされ、栄光を与えられ（ロマ 8,29—30）、聖霊で証印を押されて（エフェ 1,13-14; 4,30; 2コリ 1,21-22）、神の内にいつもとどまり、神もその人の内にとどまっておくださる（1ヨハ 3,24）、聖なる民に属する者、神の家族であります（エフェ 2,19）。



図式2 神が創った現実

4. 新しい人が生まれても、古い人が生き続けるために、洗礼を受けた人は、パウロが経験したような、内面的な争いを体験しています。



- 📖 「わたしたちは、律法が霊的なものであると知っています。しかし、わたしは肉の人であり、罪に売り渡されています。わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それをしているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。それで、善をなそうと思う自分には、いつも悪が付きまどっているという法則に気づきます。「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるのでしょうか。わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は心では神の律法に仕えていますが、肉では罪の法則に仕えているのです。(ロマ 7,14-25)

「古い人」は、現実的な存在ではなく、古い生き方への執着です。

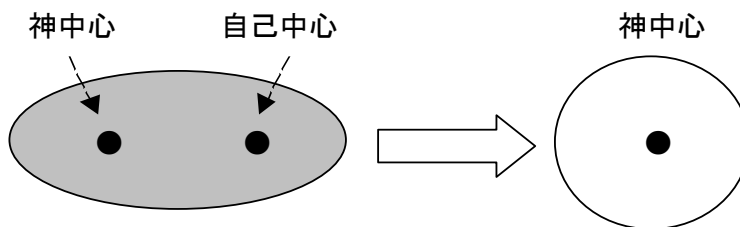
「すべての罪、たとえそれが軽いものであっても、被造物への不健全な執着を伴います。」

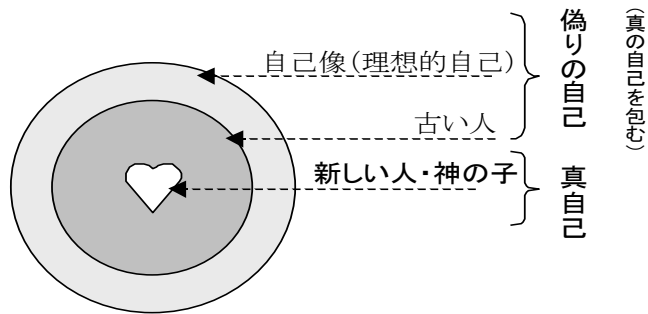
カトリック教会のカテキズム 1426、1472、1473 参与。

5. 霊的な生活の目標 — 偽りの自己(古い人)の支配からの自由になって、神中心にのみ生きること(新しい人の完成)です。

- 📖 「キリストについて聞き、キリストに結ばれて教えられ、真理がイエスの内にあるとおりに学んだはずですが。だから、以前のような生き方をして情欲に迷われ、滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたどって造られた新しい人を身に着け、真理に基づいた正しく清い生活を送るようにしなければなりません。」エフェ 4,21-24

- 📖 「今は、そのすべてを、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、口から出る恥ずべき言葉を捨てなさい。互いにうそをついてはなりません。古い人をその行いと共に脱ぎ捨て、造り主の姿に倣う新しい人を身に着け、日々新たにされて、真の知識に達するのです。」コロ 3,8-10





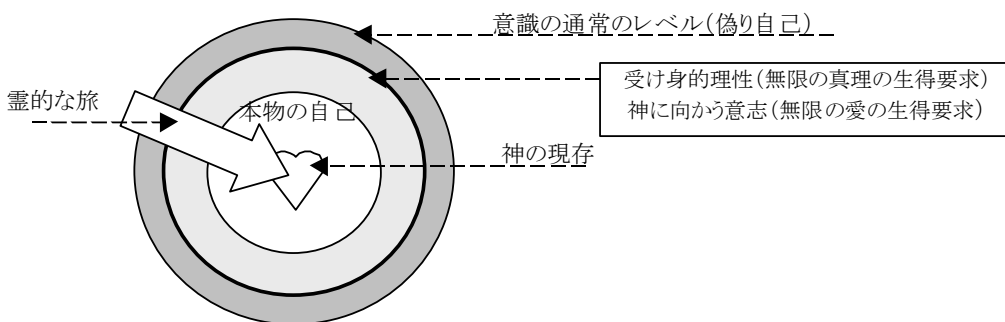
📖 「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」 2コリ 3,18

📖 「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」 マタ 13,44

6. 霊的に発達した人は、死をもたらず者から、命をもたらず者になります。

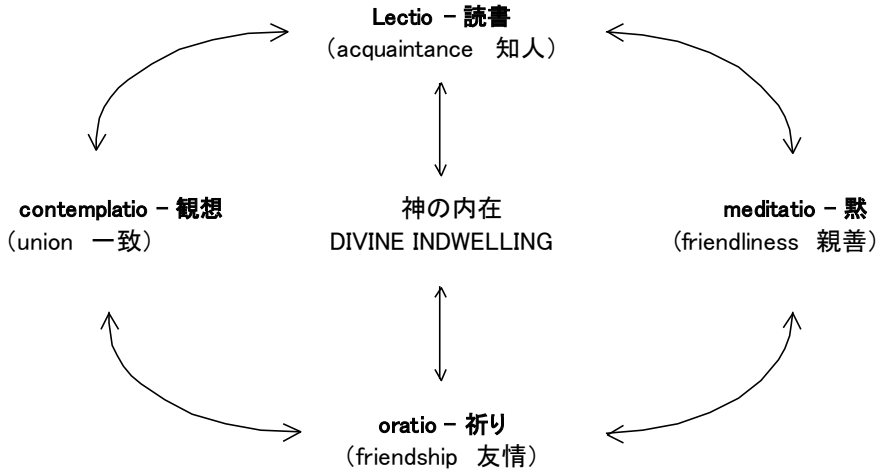
📖 「イエスは立ち上がって大声で言われた。「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、“霊”がまだ降っていなかったからである。」 ヨハ 7,37-39

7. 霊的な旅とは、自分の内（center）におられる父である神と出会うことによって、自分の本質（本物の自己）を体験して、偽りの自己の支配から開放していただくために、自分の内に向かって歩むことなのです。（放蕩息子のたとえ）。



キリストがその「帰り道」です。
この「道」を歩むというのは、
キリストとの（友情、信頼）関係を深めることなのです。

Lectio Divina (み言葉の黙想—イエスとの関係を深める伝統的な祈りの方法)



1. 読書 - 神の言葉（聖書、他の本、出会い、体験、自然、など）を読む（聞く、思い出す、見る）
2. 黙想 - 理性や感情や想像を用いて、神のことばの意味（自分のためのメッセージ）を見出す
3. 祈り - 神のことば（そのメッセージ）に応える（感謝、賛美、お詫び、願い、行い）
4. 観想 - 理性、感情、想像を超えて、神の御前に憩う

◆ 人間関係の段階

- a. 知人 - 他人についての情報を集め、自分の気持ちを調べる、話しは表面的
- b. 親善 - 一緒にいろいろな経験をしたり、互いに楽な気持ちで共にいたりするが、まだ相手を調べていて、安全な距離を保って、どこまで自分の心を開いていいかがまだわからない。
- c. 友情 - **commitment**（誓約、約束、公約、確約、関わり合い、参加、傾倒、深入り）
言質： Commit ラテン語 *committere* より。（com-対して+mittere 送る = ある人に対して送る → **ゆだねる、奉獻する**）
この人と一緒にとどまり、互いの関係を深めるようにと努力していく決心。自己奉獻。共にいる時は、安心し合い、信頼し合い、心を開き、親密さを体験する。
- d. 一致 - 沈黙が自然なものとなり、一体となる体験、親密さが深まる。

8. 神との関係の発達（観想）の妨げ

- a. 現代人の価値観—生産性（役に立っている、効果的、利用ができる）
- b. 早く移り変わる世界における一つのものへの奉獻の難しさ（テレビ文化、刺激）
- c. 個人主義、競争社会
- d. 人間関係の危機（夫婦、友情）
- e. 偽りの自己の働き

9. 古い人（偽りの自己）が求めているのは、イエスと共にいることではなく（偽りの自己の自然な死に到るから）、イエスのために働くことです（自分を「生かす」（欲望や野心を満たす）可能性がいっぱいあるから）。
10. 偽りの自己に動かされて「イエスのために働く」（実際に自分のために働く）結果
- a. イエスとますます親しくなる代わりに、イエスとの関係がだんだんと冷たくなります。イエスと共にいたいという望み、神をもっと深く知りたいという望み、また、もっと祈りたいという望みがだんだんと弱くなって、結局消えます。
 - b. 偽りの自己の支配がますます強くなり、その期待や欲望が大きくなって、私たちはいつも忙しくて、いつも疲れています。
 - c. フラストレーション（要求不満）が大きくなって、感情が激しく、精神的な安定を取り戻すために、ますます多くの発散方法や代償方法に頼らなければならなくなり、「神だけで十分です」と正直に言えなくなります。
 - d. 私たちが持っている考え、確信や価値観などと私たちの実際の行動がますます一致しなくなります（その格差が大きくなっていく）。